

湯川だより



第7号 2013/06/25
発行：御代田町 町民課

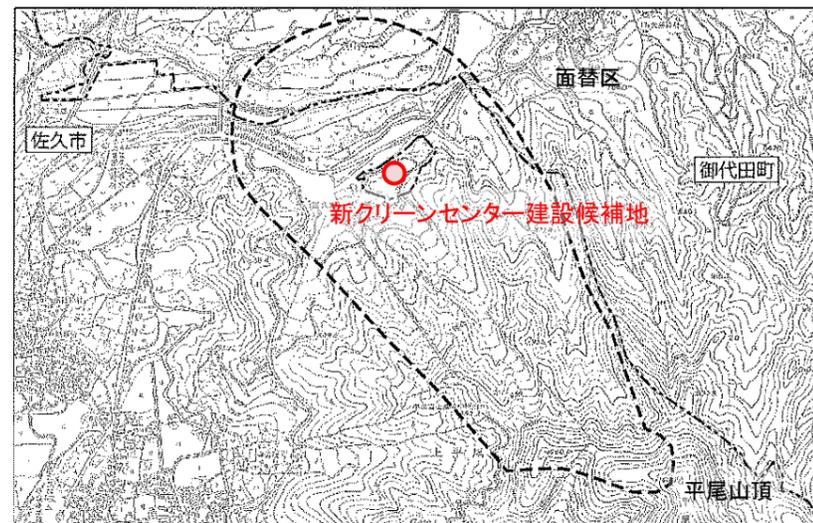
～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

新クリーンセンター環境アセス 現況調査レポート

動植物の現況調査が本格的に進む

本年1月より着手されている新クリーンセンター環境アセスの現況調査について、今号では『現況調査レポート』として、春季における動植物の調査状況をお伝えします。なお、現況調査は、来年1月まで実施されますが、引き続き、関係する皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

植物調査(植物相)



▲動物・植物調査範囲図(--- で囲まれた範囲)

5月24日まで実施された早春季、春季の植物調査は、調査範囲内を可能な限り踏査し、個体の確認を行うほか、草原や林野、湿地など特徴的・代表的な環境ごとに地点を絞り、観察されました。5月の植物相の把握では、春に咲く草花などが多く確認され、現在、種の特定作業が行われています。

4月25日、26日に行われた早春季調査に引き続き、5月23日、24日の2日間で春季における植物調査(植物相)が行われました。

動物、植物の調査範囲は、左図で表すように建設候補地から 200m程度の範囲内に加え、両側谷部を含む小流域及び湯川を中心とした範囲が設定されています。

この調査範囲内において各調査項目に適した調査地点が選定され、動物・植物調査が随時実施されています。



▲フデリンドウ



▲サルトリイバラ



▲ササバギラン

フクロウ調査

面替区のかたより、「夜になると、この辺りではフクロウが鳴いている」との情報提供をいただき、詳しい聞き取りを元に、建設候補地東側の佐久市平根地区舟ヶ沢周辺など2ヶ所に定点を設け、3月26日、4月15日、5月2日の計3回、分布調査が行われました。

また、定点からの分布調査を踏まえ、4月16日、5月7日の計2回、営巣確認調査が行われました。フクロウ調査は、明るい時間帯の調査に加え、夜間も調査が実施され、建設候補地周辺の樹林や湯川左岸の樹林など7ヶ所で鳴き声が確認されましたが、今回の調査において、フクロウを視認することはできませんでした。



哺乳類・鳥類調査



▲ニホンジカ(無人撮影機)

また、ネズミやヤマネなどを確認する目的で哺乳類用の巣箱が数箇所に設置されていますが、そのうちの1つを鳥が巣として利用している事例が発見されました。哺乳類用の巣箱ということで、本来の設置目的とは異なりますが、現況調査での心温まるハプニングでした。

鳥類調査では、視界の開けた場所や林内等、調査範囲内における様々な環境を踏査し、出現する全ての鳥類を対象に目撃、鳴き声等で個体を識別し記録していく任意観察法に加え、調査範囲内の主な環境を含むように設けられた調査定線(ラインセンサスルート)3ルートを一定速度で歩きながら出現する全ての鳥類を対象に姿や鳴き声等で個体を識別し記録するラインセンサス法により調査が実施され、64種の個体が確認されました。なお鳥類は、春季に引き続き、6月3日、4日の2日間で、初夏における調査が行われました。



両生類・爬虫類調査

4月1日の早春季調査に引き続き、5月26日には、春季調査が行われました。主に舟ヶ沢周辺や湯川の河川敷周辺などでカエルやヘビなどの個体が確認され、春季調査では両生類が5種、爬虫類が4種確認されています。

底生動物、陸・淡水産貝類調査

両生類・爬虫類調査と同じ4月1日の早春季調査に引き続き、5月29日には、春季調査が行われました。調査地点としては舟ヶ沢周辺や湯川河川敷で直接観察、任意採取、定量採取により個体の確認が実施され、早春季、春季調査では 100 種以上が確認されています。



猛禽類調査



▲平尾山西麓の上空を飛翔するノスリ

毎月2日間実施する、猛禽類の定点調査では、今回、新たに追加及び変更された定点5ヶ所から建設候補地周辺において、トビやノスリなど7種の猛禽類が確認されました。

定点調査による猛禽類の確認を踏まえ、4月26日に猛禽類の営巣場所調査が実施され、使われていない古巣などが再び利用されるか確認を続けています。

また、5月13日には、猛禽類の繁殖状況調査が実施され、確認されている特定のペアや巣を直接観察するほか、無人ビデオ撮影機を用いるなどして、定期的に観察を続けています。

魚類調査

5月29日に魚類の春季調査が行われ、投網などを用いた任意採取によりコイ、フナ、アブラハヤ、ウグイ、ドジョウ、ヤマメなど10種の個体が確認されました。また、そのほとんどが湯川で確認されています。



▲魚類調査風景



▲アブラハヤ



▲ヤマメ

昆虫類調査

5月26日から27日の2日間実施された昆虫類の調査では、目視や鳴き声、網を用いた任意採取に加え、糖蜜などの誘引餌を入れたプラスチックカップ等を地面に埋め込み、容器内に落下した昆虫を採取する方法(バイトラップ)、夜行性で光に集まる昆虫類を確認する方法(ライトラップ)により調査が行われました。

調査箇所は、哺乳類などの調査地点と同様、ふるさと大橋の下、湯川の河川敷と建設候補地の林内、舟ヶ沢にバイトラップやライトラップが設置され、現在、種の特定制業が進められています。



▲任意採取等作業の様子



▲夜間に実施されたライトラップ(カーテン式)

ちょっとそこまで

浅間しゃくなげ公園から古刹真楽寺を歩く



5月6日、御代田町の新たな名所となる「浅間しゃくなげ公園」にて記念すべき第1回の浅間しゃくなげ公園まつりが開催されました。残念ながら遅霜の影響で、しゃくなげの花はわずかしか見ることはできませんでしたが、初の試みでありながらも約2,000人の来場者があり、多くの人で賑わいました。

当日はスタッフとして参加したことから、公園内をゆっくりと散歩することができなかつたため、五月晴れに染まる5月中旬、あらためて浅間しゃくなげ公園、そして古刹真楽寺を歩きました。

浅間サンラインに面した駐車場から公園内の遊歩道を進み、子育て蔵菩薩の広場までの道中、霜にも負けず立派に咲き誇るしゃくなげの花を見ることができました。また、ヤマユリも茎を30センチほど伸ばしており、夏には、遊歩道の至るところで『やまゆりの会の皆さんと、みよたんが植えたヤマユリ』を見ることができそうです。



しゃくなげ公園から真楽寺の参道を進み大沼の池へ。龍神まつり以外で真楽寺を訪れるのは十数年ぶりのことです。しゃくなげ公園とは一変して、静寂と木々による光と影のバランス。鮮やかに輝く緑に、暗く冷たい緑、何とも言えない世界観がそこに広がります。

しゃくなげ公園と真楽寺それぞれが、お互いの魅力を更に引き立てているように感じました。これからの季節、更に緑が濃くなり、夏に向けて咲く花も見ることができます。木漏れ日と共にゆっくりと流れる時を過ごしてみたいはいかがでしょうか。(ゆ)

編集後記

新クリーンセンターの環境アセスに携わるようになったのをきっかけに、時間があれば植物や鳥の図鑑などをよく見ている。これまで花には全く縁の無かった私ですが、アセスというきっかけや心境の変化から、昨年はヤマユリやチューリップ、ポタンなど好きな花を育ててみよう、球根や苗木をいくつか庭に植えてみました。日に日に背丈を伸ばすヤマユリや少しずつ蕾を膨らますシャクヤクを見ていると、土に植え、冬を越し、水をあげ、春を過ごし…花開くその日まで、手間や時間がかかるということを実感します。

新クリーンセンターという大輪の花を咲かせるためには、1つ1つの積み重ねが大切です。この必要な施設の整備に向けて焦らず、じっくり、地域の皆さまと共に1歩ずつ歩みを進めて参りたいと思います。

【発行】 御代田町 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3111 (内線 47)
【佐久市問合せ先】 佐久市 環境部 新クリーンセンター整備推進室
佐久市中込 3056 番地 電話：0267-62-2111 (内線 484)